

名古屋アマデウス 室内管弦楽団 第17回 演奏会

2025年4月6日 (日)

14:00開演 (13:15開場)

電気文化会館 ザ・コンサートホール

PROGRAM

モーツァルト

交響曲 第29番 イ長調 K.201(186a)

メンデルスゾーン

フィンガルの洞窟 Op.26

ベートーヴェン

交響曲 第2番 ニ長調 Op.36

指揮 中村 暢宏

TICKET

全席自由：1,000円

(就学前のお子様のご入場はご遠慮ください)

チケット取り扱い

愛知芸術文化センター プレイガイド

Tel 052-972-0430

INFORMATION

お問い合わせ窓口：

メール info.amadeus@ymail.ne.jp

電話 050-7107-2457

詳細は右側のQRコードより当団ウェブサイトをご覧ください



PROGRAM

モーツァルト 交響曲 第29番 イ長調 K.201(186a)

彼の初期交響曲の中でも特に完成度が高く、洗練された構成を持つ作品である。第1楽章は活気ある主題と、弦楽器と管楽器の絶妙な対話が特徴である。第2楽章では、静謐な旋律が展開され、モーツァルト特有の繊細な表現が際立つ。第3楽章のメヌエットは軽やかさと気品を備え、そして第4楽章はエネルギッシュなフィナーレとして全体を締めくくる。全体を通して独創的な和声と優美な旋律が光る。

メンデルスゾーン フィンガルの洞窟 Op.26

スコットランド・ヘブリディーズ諸島のスタファ島にあるフィンガルの洞窟に触発されて作曲された。1830年に生まれたこの作品は、海の神秘的な情景と自然の壮大さを音楽で描写している。冒頭の主題は波のうねりを表現し、旋律と和声は洞窟内の反響や海の動きを思わせる構造を持つ。全体を通じて抑揚に富む音楽が展開され、メンデルスゾーンの卓越した風景描写と和声技術が際立つロマン派の名作である。

ベートーヴェン 交響曲 第2番 二長調 Op.36

1802年に完成した初期の交響曲である。ウィーン郊外のハイリゲンシュタットで作曲された。ベートーヴェンの難聴が進行する中で創作されたが、全体に力強い明るさと生命力が満ちている。第1楽章は雄大な序奏から始まり、生き生きとした主題が展開される。第2楽章の緩徐楽章では、優雅な旋律が美しく歌われる。スケルツォとして書かれた第3楽章はユーモアとエネルギーに溢れ、第4楽章はダイナミックなフィナーレとして作品を華々しく締めくくる。



©2021 C.T.

PROFILES



指揮・音楽監督 中村 暢宏

1973年東京都生まれ。96年愛知県立芸術大学ヴァイオリン専攻卒業。08年まで中部フィルトップヴァイオリン奏者。2000年から指揮活動を開始し、セントラル愛知交響楽団を始め、県内外の多くの楽団を指揮。12年にはブルガリア国立プロヴディフ・フィルハーモニー交響楽団の定期公演に客演。アマチュアでは当楽団のほか、プランタン管弦楽団、椛山フィルハーモニー等でもタクトを振る。

名古屋アマデウス室内管弦楽団

2008年1月設立のアマチュア楽団。
大編成のオーケストラでは比較的演奏機会の少ないモーツァルトやハイドンの楽曲を中心に演奏活動を行う。



電気文化会館 ザ・コンサートホール

〒460-0008

愛知県名古屋市中区栄二丁目2番5号

東山線・鶴舞線「伏見」駅 4番出口より東へ徒歩2分

